

ようになり、中国文化のちには南蛮文化、欧米文化を撰取するに至って二転も三転もいたし、蓑、合羽、被布、マント、鳶、二重回し、吾妻コート、角巻の上にまで色々の変化をきたした。いいかえればわが国の防寒具史の研究は外来文化の被服学上に与えた影響を究明するのに重要な一部門と考えられるのである。

2. 上の目的完遂のために文献、絵画、遺物の3方面より歴史考古学的方法論によって研究を重ね、今回は特に幕末開港以後の防寒具が欧米文化に接することによっていかなる変遷をたどったかを追求した。

3. 明治の文明開化と鹿鳴館時代の欧米模倣はわが国の被服生活を欧米化させ、その結果は和洋二重生活をもたらしたが、防寒具の上にも布帛製品ほかしらなかつた地質の上に羅紗を利用させ、形態の上にも革命をもたらした。

33. わが国における防寒具に関する研究

特に明治時代における防寒具

関東学院短大 檜垣 好子

1. わが国の被服文化の特色は、わが国が大陸に接している島国であるという関係から、絶えず外来文化の影響をうけて、それを吸収咀嚼して発達してきた。これに加うるに国土の地理的条件上、南北に長大に延びている関係上、奥羽地方と九州では寒暖に対する差も著しく、その結果はわが国の防寒具の上にも様々の変化を及ぼした。当初防雨を主体としたものが次第に防寒をも兼ねる